

変えよう!
change
兵庫県

憲法が輝く兵庫県政をつくる会
第42号 2024年3月10日
HP・X (旧ツイッター)
「兵庫・憲法県政の会」検索! 【部内資料】

第21回定期総会を開催

2025年知事選挙に向け 共同の取り組みを追及



「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」は2月15日、第21回定期総会を開き、新年度の活動方針や新役員体制などを決めました。

総会では、石川康宏代表幹事の挨拶の後、土井直樹事務局長が議案を提案しました。

齋藤県政について、「何よりも行財政運営の見直しを最優先にかかげる一方で、地方自治の魂ともいべき『住民福祉の増進』は後景に追いやり、県民の生活苦や痛みに寄りそう姿勢が欠落している」と指摘し、「県政の転換を願う新しい市民運動を展開する個人・団体と要求が一致すれば共同は可能。共同候補者も視野に入れ、共同の取り組みを追求する」との活動方針を確認しました。

全体会で2人が発言し、その後、参加者全員が6グループに分かれて意見交換しました。

【開会あいさつ】 石川康宏代表幹事

今日は、選挙直前1年間の方針や役員を決める大切な総会です。前回のよう候補者が直前まで決まらないという状況は、なんとしても避けねばなりません。

2月4日には前橋市長選挙で広く共闘した野党の側が勝利しました。市民と野党の共闘の重要性は明らかです。他方で、京都市長選挙の結果は残念でしたが、あくまで要求をもとに市民の中に合意の輪を広げていく福山候補の取り組みは教訓的でした。大いに学びたいと思います。

先日、2022年に岸本区長を生んだ杉並区長選の記録映画を観てきました。「兵庫民報」の新年座談会でもジェンダー問題を重視しましたが、「市民が政治を変えろ」を女性が前面に立って果たしていく様子は実にリアルなものでした。その後の区議選で議会の男女比を逆転させていった取り組みも見事です。こちらも大いに学びたいと思います。

今日の議事には出席者全員でのグループ討論が含まれています。コミュニティ・オーガナイズングを実践する取り組みの小さな一歩です。「知事選にどう取り組むか」というアイデアをぜひたくさん出し合ってください。各種の報告もそのつもりで聞いていただくようお願いいたします。

【発言】 県原水協 梶本修史事務局長

世界と日本は、「戦争」 「国家分断」の岐路にあります。兵庫県も無関係でいられません。兵庫県は、私たちが考える以上の「戦争国家づく」貢献の県です。陸・海・空の全分野で軍事化がすすみ、大きな役割を果たしています。

【陸】「防衛」の中核を担い東海中・四国の2府19県を統括する陸上自衛隊中部方面隊の司令部が存在。日米地位協定で中部方面隊の敷地が米軍に提供もされています。しかも、県内の自衛隊基地は、戦争遂行に耐えられるように「強靱化」、増強する計画です。

【空】米軍機が兵庫県の空を自由に飛び回っています。但馬地域では、1994年以来、米軍機の低空飛行訓練が常態化し、最初の10年間で300回以上も目撃されています。最近では欠陥輸送機オスプレイまで飛行しています。低空飛行空域は、年間2000回以上も出動するドクターヘリの航行範囲と重なっており、危険は目に余るものがあります。

【海】兵庫県管理の姫路港に3回も米艦が寄港しました。非核証明書の提出を義務づけ（非核「神戸方式」）49年間も米軍艦が寄港できなくしている神戸港と比べ、「日米安保条約上の相互関係から特定の理由なしに拒否する理由がない」と、米軍艦への全面開放の立場を表明。

岸田政権が地方自治を崩してで



陸上自衛隊伊丹駐屯地創隊記念行事 (22年10月2日)

も戦争態勢を進めようとしている時に、危険な動きに同調する姿勢では、県民の平和、安全を守れません。

日本共産党 庄本えつこ県会議員

兵庫県政については行財政運営の見直しを最優先にしていますし、県民の暮らしや中小業者に寄り添う姿勢は本心に弱いなと思っっています。また、公約である女性の副知事登用、給付型の奨学金の創設、少人数学級のいずれも棚上げにしています。特に少子化を理由に公立高校を統廃合しようとしています。少人数学級にしてから学級数が増えますので、公約通りにやれば統廃合する必要は全くありません。

2024年度予算から見ても、高専教育の負担軽減など若年層への対策を強化する一方、パナソニックなど大企業を中心とした産業立地促進補助を積みながら、中小企業への直接的な支援はほとんどありません。また、地元からそもそも必要がないと批判されている播磨臨海地域道路事業には、7300万円の調査費がついています。

能登半島地震が発生し、未だに復旧のめどが立っていない中、大阪・関西万博の予算も計上されています。阪神・淡路大震災を体験した県として、その教訓を活かして能登半島地震の復旧・復興に力を注ぐべきです。

県議会は共産党以外オール与党です。2名になってしまいました。が、県民の要求実現のために頑張ります。そして来年の知事選挙が本場に大事です。県民の暮らしをしっかりと支える兵庫県政にしたいために、私たちが一緒に頑張りたいと思います。

グループ討論 - グループ討論の司会者からの報告 -**【第1グループ】**

(1) 総会提案への質問・意見

- ・取組の具体化が不十分
- ・農業問題で県民の心をとらえる政策が必要
- ・早く候補者の擁立を
- ・県内で市民と野党の共闘できないか

(2) 斎藤県政の問題点

- ・若干、県民要求にこたえる部分も見せているが国いいなりの自民党県政の本質かわらず
- ・病院・学校の統廃合や職員削減などコストカット県政だ
- ・県民要求にこたえるポーズをみせながら、例えば高齢者への冷たさはハッキリ

・年金者組合で一番話題になっているのは「どの病院でみてもらえるのか」という不安

- ・物価高の中、女性の年金少なく、もう節約するところない
- ・神戸／姫路で市バスや水道料金値上げの動き→地域格差を是正する県政でない

(3) 県政の会への要望、活動提言

- ・神戸各区の会の全体が活動交流できる場を
- ・「わたしたちのこんな要求を実現する県知事を」の立場で、年金者組合らしい選挙戦にしたい。
- ・兵庫民報で知事選の分野からの政策が出はじめたが、活字だけではだめ。SNS／ユーチューブ／ホームページなど大いに活用して

【第2グループ】

主な話題は、①青森県が小中学校の給食無償化にむけて全市町に支援、②県立大ほか県内在住者のみの学費無償化は県内受験生を外に追いやることも、③補聴器への補助金は街頭でも賛同者が多く何とかつながりたい、④杉並区長選を描いた映画の上映運動と結んで、⑤若い世代は自分のシンドさと政治のつながりを理解した時変わる、⑥街頭での対話が必要でシール投票などを積極的に、⑦今後もこうした討議の機会をもうけてほしい等。

**【第3グループ】**

県政の問題点として、①教育問題では、教員数が足りず、学校統廃合で人件費削減などで教育現場が疲弊。少人数学級の実現なども困難。教育に対する県政のビジョンがない。②平和の問題では戦争する国への雰囲気作りが進む。自治体を巻き込んだ取り組みが必要。③県の労働の現場でも非正規が増え労働条件が悪化。

今後の活動として、①県政が県民に身近でなく関心が低い。三田市長選で病院統廃合で関心が集まったように県政が県民の暮らしと結びついていることをどう知らせていくか、②地域によっても違う。学校統廃合問題も姫路と神戸ではピラの受け取りや関心に差がある。③SNSやネットの活用

【第4グループ】

各分野から生活者としての県民の視点から鋭い指摘がされました。人口減少が激しく地域が持たなくなっている。県職員の4割出勤のめざすものは？労働者数、非正規の数を県はつかんでいない、大学は医療・看護系がたくさんあるが、エッセンシャルワーカーの最低賃金、全国一律最低賃金の底上げは喫緊の課題。「女性の貧困」、ジェンダー平等に向き合わず、子どもの医療費18歳までの無料化とあたりまえの医療、学校給食費・教育費の無償化は市町任せで、市民病院、学校、幼稚園の統廃合など、公共の財産を投げ捨て。農業県でありながら農業

支援が弱く、気候対策も弱い。播磨臨海道路など古いゼネコン型県政で、住民の生活は悪くなるばかり。

どこに展望があるか。ローカル線廃止に自治体が反対しているので知事も同意することができないことや、中学校給食運動はじめ当事者が声をあげ、市民運動が自治体を動かしていることです。「県政の会」・私たちの運動を地域・職場でどのように大きく知らせていくかが、今後の課題です。

国に追従し、効率・利潤優先の県政から、公共財産を守り活かす、非核「神戸方式」攻撃に屈しない、平和と県民生活を守る「住民が主人公」の県政に選挙で変えていこうと、思いあふれるミーティングになりました。

**【第5グループ】**

・人口減少を理由に、バスの減便、幼稚園の廃園など様々な問題が起きている。ガソリン代の高騰に対し、県は何の対策もない。地域経済は疲弊している。住宅リフォーム制度の導入など、地域経済活性化のために、県がやれる対策はいくらでもある。県はもっと住民の声を聴いて政策を出してほしい。

・高速道路ばかりつくっていないで、JRのローカル線（加古川・姫新・播但など）の継続について、県はもっと力を入れるべき。住民の足を守るために、自治体と一緒に頑張ってほしい。県民の暮らしを最優先に考えるという視点にたって税金の使い道を考えてほしい。

【第6グループ】

・一人でも多くの県民が自分の要求を掲げた知事選になるようにすべき。ただ、連日報道される国政などと比べて、県政は多くの県民にとって身近なものではないので、「どういふ県政を望みますか」という呼びかけでは、なかなか要求が集まらない。だから、今の生活で困っていることを集めて、県政を変えれば解決できるという形で政策化していく必要がある。

・斎藤県政の問題点を広く県民に知らせて、県政を変えようという呼びかけももちろん大切だが、現県政の批判だけではなく、こういう県政を実現しようという前向きな政策を早く作っていくべきだ。また、個人や団体に広く呼び掛けて、インパクトのある共闘候補が擁立できればいいと思う。

**【閉会あいさつ】
櫻井文子代表幹事**

今回の新しい試みのグループ討論会、いかがでしたか。とても楽しかったですね。もっと喋りたいと、時間が足りなかったと、やはりみんなのお喋りの中で練り上げていくという今日の新しい取り組みで、県政の会も「アップデート」しています。短時間ではありましたが、地域、団体、職場から、こんな県政にしていこうのだと、課題も持ち寄って豊かな討論になったと思います。

物価高、上がらない賃金、働いても半分は税金取られ、政治によって国民生活、命が壊される中、この岸田政権、自民党丸ごとの裏金、政治資金の私物化、統一協会との癒着に国民誰もが今、「腐りきった自民政治をもう終わりにしよう！」と怒りの世論と、「主権者は私！」の市民政治が大きく歴史を動かしている情勢だと思います。

子どもたちが「今の日本おかしいよ」と声をあげています。子どもたちに説明できない今の自民政治の酷さに、心底、怒りの声を発し、変えていきましょう！この兵庫から、県民誰もが笑顔でくらすことのできる時代を子どもたちと一緒に迎えたいです。共にごんばりましょう。

